

# 中学校社会科における単元設計と評価に関する一考察 —単元『敗戦から立ち直る日本』の実践の検討—

発表者 高橋 純一 (東筑紫短期大学)

Key Word 主体的・対話的で深い学び 単元設計 単元を貫く学習課題 追究意欲

## 1 はじめに

新しい学習指導要領には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の方向性が示されている。具体的には、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない<sup>1)</sup>」と指摘している。つまり、学校現場においては、生徒の資質・能力の育成を図るために、単元全体を見通した指導の工夫が求められるのである。また、その資質・能力がどの程度育成されたかどうかを見取るための学習評価を充実させることも不可欠である。

坂井は、「主体的・対話的で深い学び」を創り出す上で重要な要素として学習問題の設定を挙げている<sup>2)</sup>。そのことについて、「子どもが『主体的な学び』を進めていくためには、まず知りたくてたまらない、調べずにはいられない切実な学習問題の設定が不可欠である。そのためには、子どもの知的好奇心を刺激するような働きかけが必要である<sup>3)</sup>。」と述べている。その具体的な教師の働きかけの一つとして、「相反する比較情報を与える<sup>4)</sup>」ことを提唱し、追究意欲を生み出すことの重要性を指摘するのである。

そこで筆者は、2019年にX町立Y中学校において、3学年社会科歴史的分野である単元『敗戦から立ち直る日本』で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた単元設計に基づく授業実践を試みた。授業実践では、導入時において単元を貫く学習課題を設定する場合に、追究意欲を生み出すための資料提示や教師の働きかけの工夫をテーマに取り組んだ。

本発表では、本単元の中でも第1次の授業実践に着目して、どのように生徒から追究意欲が生み出されるような資料を提示し、単元を貫く学習課題が設定されたのかその過程について明らかにしていく。

## 2 単元『敗戦から立ち直る日本』について

今回の発表で取り上げる単元『敗戦から立ち直る日本』の概要は、下にある表1のとおりである。

表1 単元の概要

<p><b>1 単元名 「敗戦から立ち直る日本」</b></p> <p><b>2 単元の目標</b></p> <p>(1) 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰、高度経済成長などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを、諸資料から効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会について現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。</p> <p><b>3 単元の評価規準</b></p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <p>冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰、高度経済成長などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして日本の民主化と冷戦下の国際社会について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p><b>4 単元について</b></p> <p>本単元においては、単元全体を通して主体的・対話的で深い学びの観点から指導にあたる。まず、単元の導入時に単元を貫く学習課題を設定する際、空襲後の東京と約20年後のオリンピック直前の東京の様子を、写真で提示し比較することにより、生徒からの疑問を引き出し、生徒から学習課題が設定されるようにする。また、学習課題に対する追究意欲を持続させるために、それを黒板に毎時間掲示する。さらに、単元を貫く学習課題を設定した直後に予想をさせ、最後にその予想との関係で、これまで授業を振り返り、それに対する自分の考えを書くようにして、生徒の学習の深まりを見取るようにする。</p>
--

表1にある「3 単元の評価規準」について、「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習の取り組む態度」の3観点で表した。それは、新学習指導要領において育成を目指す生徒の資質・能力を、「知識及び技能」・「思考力判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理したことを踏まえて、各教科の観点別学習状況の評価を前述した3観点到に整理されたからである。また、「4 単元について」は、単元全体における指導の構想を示したものである。単元を貫く学習課題をいかに生徒から出された意見を基にして設定するのかという問題意識をもちながら指導に当たったのである。単元を貫く学習課題が設定されたことを踏まえ、どのように生徒の評価を見取ったのかについても触れた。

### 3 単元『敗戦から立ち直る日本』（第一次）における生徒の学習の様子

まず、第1次の導入にあたって、「青空教室」など戦後の日本を象徴する写真を活用しながら、日本の当時の様子について説明した。次に、1945年の空襲後の東京の様子と、1964年の東京オリンピック時の東京の様子の写真と比較し、疑問に思ったことや感じたことなどを交流したのである。生徒からは、「こんなに回復したんだ。」というつぶやきとともに、「どうして、20年で回復したのか。」や「どうして20年で東京オリンピックやれるまで成長したのかな。」、「お金はどこから出て成長したのかな。」という疑問が出されたのである。そのような生徒の発言やつぶやきから、単元を貫く学習課題として、「なぜ日本の経済は、戦後20年間で飛躍的に成長・回復したのだろうか。」を設定したのである。

その後は、その課題に対する予想を考える学習活動を設定したのである。生徒からは、「色々な国と条約を結び、助けてもらったから。」や「活発に外交や貿易をするようになったから。」など、他国との関係を結んだことにより、復興に繋がったと予想を立てる生徒がいた。また、「武器を製造するのではなく、復興に向けた物が製造されたから。」というように、国民生活の視点から予想を立てる生徒もいた。さらに、「戦前は、天皇がトップだったが、内閣や首相などが政治を進めるようになったから。」というように、政治というカテゴリーを使いながら予想を立てるなど、新学習指導要領でねらいとされている「公民的分野の学習に向けた課題意識をもつ<sup>5)</sup>」ことに繋がる意見をもてるようになったのである。

### 4 おわりに

その後の授業では、特に第7次において単元を貫く学習課題に立ち返り、第1次で立てた予想との関係で、予想が深まったり、予想とは違う考えを見出したりしたのかについて、自分の考えを書くようにした。単元の導入時において、単元を貫く学習課題を設定する際に、教師が大空襲後の東京と20年後の東京を比較する資料を提示することにより、生徒のつぶやきや発言があり、そこから学習課題を設定することが可能となったのである。このような内発的な単元を貫く学習課題を設定したことにより、その後の学習において自分事として学習課題を捉え、随所に主体的に学習する生徒の姿が見出されたのである。また、単元の指導計画について次頁の表2に示した。

表2にあるとおり、今単元の評価については、パフォーマンス課題による評価を用いた。パフォーマンス課題を位置付けることにより、生徒がどれくらい深く思考できるようになったのか評価することが可能になる。とりわけ、毎時間パフォーマンス課題を積み重ねることにより、総理大臣の立場になりきり、知識やスキルを使いこなしながら、生徒が当事者性をもって学習に参加することをねらったのである。このことは、単元を貫く学習課題に対する追究意欲の持続の観点からも重要である。

今後は、単元において毎時間のパフォーマンス課題を位置付けることにより、どのように生徒が学習課題を自分事として捉えていったのかについて明らかにすることが課題である。また、単元を貫く学習課題に対する予想との関係で、単元の最後にどのように振り返りを充実させることができるのかについて、研究を深めていきたい。

#### 【引用文献等】

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年7月）解説—総則編—』東山書房、2018、78頁。
- 2) 坂井誠亮『社会科教育 2016年10月号』明治図書、2016年を参照のこと。
- 3) 同上書、43頁。
- 4) 同上書、43頁。
- 5) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年7月）解説—社会編—』東洋館出版、2018、121頁。

表2 単元の指導計画(全7時間) (MQ:単元を貫く学習課題, SQ:授業ごとの学習課題)

MQ:なぜ日本の経済は、戦後20年間で飛躍的に回復・成長したのだろうか。				
時間	主な学習内容と活動	言語活動の充実における指導上の留意点	パフォーマンス課題 (◎は単元の課題)	評価規準
1	<p>【戦後の日本の概観】</p> <p>【単元を貫く学習課題の設定】</p> <p>MQ:なぜ日本の経済は、戦後20年間で飛躍的に回復・成長したのだろうか。</p> <p>○戦争が終結して、GHQの占領政策と戦争の傷跡について、実態を詳しく知る。</p>	<p>○1945年と1964年の東京の写真と比較し、どのような変化があったかをノートにまとめ、発表する。</p> <p>○なぜ日本経済が戦後20年間で飛躍的に回復・成長したかを予想し、発表する。</p>		<p>○1945年と1964年の東京の写真を提示することにより、新しい日本の建設について関心を高め、意欲的に追究し、特色を捉えようとしている。(ノート)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
2	<p>【新時代に求められた憲法】</p> <p>SQ:GHQの占領政策により、日本はどのような国家に生まれ変わったのだろうか。</p> <p>○敗戦後、どのような改革が行われ、またどのような影響が残ったのか、写真資料などから読み取ってまとめる。</p>	<p>○戦後の日本では、どのような方針の下で改革が行われたのか、資料などを基に、それらの意義についてグループで話し合い、自分の意見をまとめる。</p>	<p>○あなたは総理大臣だ。他議員から「総理、あなたは戦後もなく実施されたGHQの占領政策や日本国憲法制定・施行をどのように評価しますか。」という質問を受けた。総理大臣としてどのように質問に答えるか。</p>	<p>○財閥解体と農地改革が行われた理由を考察し、それぞれのねらいを明確に示しながら、適切に表現している。(ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
3	<p>【冷たい戦争とその影響】</p> <p>SQ:なぜ日本は、改革の路線変更をしたのだろうか。</p> <p>○第二次世界大戦の終結からわずか5年後、朝鮮半島が戦後の日本の改革にも路線変更という意味で大きな影響を与えたことを考える。</p>	<p>○戦後の冷戦は、世界各地にどのような対立を生んだのか、資料などを基にグループで話し合い、自分の意見をまとめる。</p>	<p>○あなたは総理大臣だ。新聞記者から「総理、戦後のGHQの占領政策が転換した背景について説明して下さい。」という質問を受けた。総理大臣としてどのように質問に答えるか。</p>	<p>○日本が冷戦体制に組み込まれた背景を考察し、平和主義の原則の下、非軍事化が進められていた日本で、自衛隊がつけられた経緯にふれながら、適切に表現している。(ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<p>【日本の独立と世界の動き】</p> <p>SQ:日米安全保障条約によって、どのような影響があったのだろうか。</p> <p>○日本の独立回復後、国内外の情勢がいかなるものであったか、資料などから読み取ったり考えたりする。</p>	<p>○日米安全保障条約が現在の日本にどのような影響を与えているのかを、資料などを基にグループで話し合い、自分の意見をまとめる。</p> <p>○日米安全保障条約の改定について、賛成と反対それぞれの意見を、根拠を基にして考えを述べる。</p>	<p>○あなたは総理大臣だ。他議員から「総理、あなたは日本にとってサンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約のもつ意味について、どのように考えていますか。」という質問を受けた。総理大臣としてどのように質問に答えるか。</p>	<p>○日米安全保障条約の改定について考察し、賛成と反対それぞれの意見を、根拠を基にして適切に表現している。(ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
5	<p>【冷戦下での日本とアジア】</p> <p>SQ:ベトナム戦争により、日本をふくめた東アジアの関係はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○ベトナム戦争により、日本をふくめた東アジアの関係はどのように変化したのか、沖縄の復帰や韓国・中国との関係に着目し、資料などから読み取ってまとめる。</p>	<p>○日本と韓国・中国との国交正常化に対して、ベトナム戦争が与えた影響はどのようなものであったかをまとめ、発表する。</p>	<p>○あなたは総理大臣だ。他議員から「総理、あなたはベトナム戦争以後の日本の外交について、どのように評価しますか。また、あなたがその当時の総理大臣ならば、どんな外交を展開しますか。」と質問を受けた。総理大臣としてどのように質問に答えるか。</p>	<p>○日本と韓国・中国との国交正常化に対して、ベトナム戦争が与えた影響を考察し、適切に表現している。(ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
6	<p>【経済成長による日本の変化】</p> <p>SQ:高度経済成長により、国民生活はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○日本はどのような問題をのりこえて、経済成長を進めてきたのか、写真やグラフなどの資料から読み取ったり考えたりする。</p>	<p>○高度経済成長により、国民生活はどのように変化したのか、写真やグラフなどの資料から読み取り、ノートに考えをまとめ発表する。</p>		<p>○高度経済成長によって国民生活が向上することを意欲的に追究している。(ノート)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
7	<p>【単元の振り返り・パフォーマンス課題】</p> <p>MQ:なぜ日本の経済は、戦後20年間で飛躍的に回復・成長したのだろうか。</p> <p>○パフォーマンス課題に取り組ませる。</p> <p>SQ:あなたが戦後間もない頃に在任する総理大臣だったら、どのような復興策を講じますか。</p>	<p>○今までの学習内容を踏まえて、日本経済が戦後20年間で飛躍的に回復・成長できた理由をグループで話し合い、三つ挙げてまとめる。</p> <p>○戦後間もない頃に在任する総理大臣だったら、どのような復興策を講じるか、生徒各自で考え、課題用紙にまとめる。</p>	<p>◎あなたは、日本の総理大臣だ。日本は、戦後約20年間で東京オリンピックを開催するまでに回復・成長を遂げた。なぜ、急速に回復・成長したか3つ事柄を挙げ記者の質問に答えなさい。また、戦後間もない頃の総理大臣だったら、どのような復興策を講じるか答えなさい。</p>	<p>○生徒自身が予想した内容との違いを踏まえて、単元を振り返ることができる。</p> <p>○学習内容を踏まえて、具体的な復興策を、根拠をもって提案することができる。(課題用紙)</p> <p>【知識・技能】【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>